館賞
図書長
校会
学議
協

# 「ハーレムの闘う本屋」
# 小林 栞南さん
## 「見える世界が広がる」

黒人差別が合法とされた時代、黒人について黒人が書いた本を、黒人だけに売る本屋を開いた、ルイス・ミショーの生涯を描いた本を選んだ。

書店は黒人たちが自分たちのことを知る場になった。自らの文化や歴史を知識として身に着け、進むべき道を模索するようになった。小林さんは、学ぶことの意味について、「自分自身を知ること。知ることで、相手の違うところに目を向けることができる」と気付いた。

同時に「自分らしさ」に対する認識も変わった。これまで友人と異なった意見を持った時、否定されるのが怖くて口に出すのをためらっていた。しかし、

「相手がいて初めて自分を客観的に見つめることができる」と気付いた。相手の考えを受け入れながらも、自分の意見を伝えられるようになったという。

本の魅力を「自分が実際に体験しなくても見える世界が広がる」と語る。将来は「教育関係の仕事もしたいし、英語が生かせるのもいい。やりたいことがいっぱいあって決まりません」。読書を通じて、さらに自らの可能性を広げるつもりだ。